

科目名	プロジェクト演習Ⅰ
単位数	1.0単位
担当者	情報科学研究科全専攻 教授（専攻長）、准教授、講師
履修時期	前期または後期
履修対象	1, 2 年次
講義形態	演習
講義の目的	<p>地域の企業・自治体の課題を情報通信技術を活用して解決する。 課題提案者（企業・自治体）との議論を通じて到達目標（解決すべき課題）を設定し、プロジェクトとして取り組む。</p> <p>地域社会の課題を理解しながら、自身がこれまでに修得した、あるいはこれから修得すべき情報科学・情報工学に関する知識・技術等を活用し、プロジェクトメンバーと協力しながら課題を解決する力を身に付ける。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な立場の人と課題を共有し、協働して同じ目標に向かって行動することができる。（主体性・協働性） ・課題と自身の専門性を理解し、自身の能力を発展・応用させながら課題に取り組むことができる。（知識・技能、思考力・判断力） ・自身の活動の成果・社会への還元を理解してそれを他者に説明することができる。（思考力・表現力）
受講要件	特になし。本演習を修得後に「プロジェクト演習II」を履修すること。
履修取消の可否	否
履修取消不可の理由	企業や自治体との連携を前提とした科目であるため。
事前・事後学修	各自がこれまで学部で修得した情報科学・情報工学に関する知識・技能等をプロジェクト活動において活用できるよう、適宜復習・確認して欲しい。 各プロジェクトチームにおける計画並びに進捗状況に応じて、適宜、追加の活動が必要となる。
講義内容	<p>1-2. ガイダンス：提案者による課題説明、課題調査 地域企業・自治体等から提案される課題の説明を受ける。提案者と協議をしながら、プロジェクトとして取り組む課題を調査する。</p> <p>3-4. プロジェクトの計画 (1) 取り組み課題の選択と準備 提案された課題の調査をもとに、プロジェクトとして取り組む課題を検討し、決定する。あわせて、課題解決のために必要な専門的な知識や技能を調査・検討する。</p> <p>5-6. プロジェクトの計画 (2) 到達目標の設定と実施計画の策定 選択した課題を、提案者と協議をしながら、具体的なプロジェクトテーマとして設定する。到達目標を設定し、それを実現するための具体的な実施計画に落とし込む。アドバイザー（候補）も設定する。</p> <p>7-8. プロジェクト実施計画書の作成および申請・報告 実施計画をまとめ、提案者および指導委員会に対して申請・報告する。審査の結果に応じて実施計画を適宜修正する。</p> <p>9-13. プロジェクトの実施 プロジェクトとしての活動を開始・実施する。</p> <p>14-15. 中間報告書の作成 プロジェクトの進捗と今後の計画を報告する。他のプロジェクトチームとの意見交換も行う。</p> <p>※注意 ・実施期間は、原則として「プロジェクト演習II」としての活動を含めて計画する。 ・プロジェクトの構成員には、本演習の履修登録者以外の者を含めることができる。 ・実施計画には、構成員の選定と役割分担の決定、必要な機器等の検討とその予算編成も含まれる。 ・その他の必要事項は「プロジェクト演習実施要領」を参照すること。</p>
期末試験実施の有無	実施しない
評価方法・基準	プロジェクトに対する取り組み状況（プロジェクト内でのディスカッションやプレゼンテーション）、計画書や中間報告書をもとに総合的に評価する。配分は次のとおり。 プロジェクトに対する取り組み状況 60% 計画書（申請書）・報告書 40%
教科書等	参考書：飯尾淳編著，中川正樹監修，演習と実例で学ぶプロジェクトマネジメント入門（第2版），ソフトバンククリエイティブ，2012.
担当者プロフィール	それぞれのプロジェクトチームには必ずアドバイザー（原則として、准教授または講師）が担当します。常にアドバイザーにプロジェクトの進捗を報告・相談しながらゴール達成を目指してください。
講義に関連する実務経験	

課題や試験に対するフィードバック	適宜、アドバイザーからの助言を行う。計画書や報告（報告書・発表）に対しては、プロジェクト演習指導委員会から助言を行う。
アクティブ・ラーニング	PBL、TBL、プレゼンテーション、調査活動、ディスカッション、振り返り
キーワード	産学連携、地域貢献、プロジェクト・マネジメント
備考	産学連携教育科目